

広報

～わたしの舞台は たからづか～

たからづか

9

2026 September
No.1351



子ども記者 記事作成の様子



特集

子ども記者特別企画

「私たちが見つけた!市内温泉のヒミツ」

宝塚市 認知症あんしんナビ
取り出してお読みください

西谷バスの試験運行を開始

P6

鳥山まこと芥川賞受賞記念イベント

P11

私たちが見つけた!

市内温泉の ヒミツ



子ども記者特別企画



市内の小学生2人が
記者になって特集を作成!
宝塚温泉と武田尾温泉を
取材しました。

問 広報課

(☎77・2002 FAX74・6903)



りお記者

ゆうは記者

宝塚温泉

ホテル 茗水

ヒミツ
01

宝塚の景色が
一望できる最高の
部屋!

800年以上の歴史をもつ宝塚温泉は、海底からプレートとともに沈み込んだ海水が、六甲山の断層をつたって温泉として湧き出ています。海水が海底から宝塚市の下まで来るのに600万年以上かかり地球の中で熟成されるため、温泉につかるとすごく温まり、疲れも取れるそうです。

また、ホテルのお部屋の窓からは宝塚大劇場や阪急電車、武庫川など宝塚の街並みが一望できます。大きな窓から見える景色はとてもきれいで、普段は見ることのできない光景に特別感がありました。

みんなが楽しめる工夫がってる!



私が取材
しました



りお記者

ヒミツ
02

茗水という
名をつけたのは
お客さん!

茗水という名前は、当時よく来てくれていたお客さんから「すごく縁起のいい名前だから」と薦められて決まったそうです。茗水とは、元旦の早朝に家族の健康や幸せを願って井戸からくみ上げる縁起の良い水のことです。「この場所は温泉だけでなく、ウィルキンソンの水も湧いているし、すごくお水と縁がある。だから何か意味があつてこの名前を頂いたのかも。本当に良い名前を頂きました」と社長が話してくれました。

名前を提案したお客さんが、書道家に書いてもらった文字をそのまま看板にしたそうです



ヒミツ
03

温泉から環境に貢献!?
バラ風呂の花を
土に返す

ホテルでは、また来たいとお客さんに思ってもらえるように、季節ごとに色々な企画を考えているそうです。夏休みには読書感想文の講座や、地球環境を考えるイベントを。また、「日本文化や伝統を子どもたちに体験してもらいたい」と、鯉の餌やりや打ち水体験なども行っています。他にも、毎週月曜と土曜には女性の露天風呂がバラ風呂になっているのですが、使い終わったバラを土と一緒に宝来橋の花壇に戻して肥料にするということもやっているそうです。

※いずれも8月末で終了

鯉の餌やり
楽しかった!



武田尾温泉 紅葉館 別庭あざれ



📍 玉瀬字イヅリハ1-47
 🚶 JR武田尾駅から徒歩約5分
 🏠 なし
 🛏 宿泊(1泊2食付き)4万円～
 🔄 日帰り入浴1800円(小学6年生まで無料)
 ☎ 91・0131



宝塚温泉 ホテル若水



📍 湯本町9-25
 🚶 JR・阪急宝塚駅から徒歩約5分
 🏠 月2日程度休館
 🛏 宿泊(1泊2食付き)2万8千円～
 🔄 日帰り入浴2200円(子ども1100円)
 ☎ 86・0151



どこでも感じられる自然
 おちつくひととき

私が取材
 しました

武田尾温泉は約380年前に、
 武田尾直蔵さんが発見したんだって！

ゆうは記者

紅葉館 別庭あざれ

武田尾温泉



お土産として人気の石鹸。温泉水で作られていて、自然のいい香りがします

武田尾温泉は日本では数少ない「ラドン」という成分を含む療養泉で、疲労回復や冷え性、筋肉痛をはじめ、体のさまざまな不調に効果があるそうです。実際に私もただけ入りましたが、すぐくポカポカして温かさが長持ちしました。入浴後は体が軽くなるそうで「杖をついていたお客さんが、お風呂上がりには杖を忘れて帰ってしまった」というエピソードも。さらに、ホテルは風水をもとに建築設計されており、ここに来ると「金運が上がる」と総支配人が言っていました。

ヒミツ01
 体が元気になる！
 さらに金運も
 上がる！

自然の中に
 いるみたい！

取材して驚いたのは部屋を囲む豊かな自然。「太陽を浴びること」を初代の経営者から大切にされており、朝日がよく当たる場所を計算してホテルの場所を選んだと教えてもらいました。訪れた人たちに、太陽を浴びて心も体も元気になつてほしいという願いが込められています。また、部屋ごとに部屋名と同じ植物が植えられています。テラスに出てみると、日の光を受けた木がすぐそこにあり、鳥や虫の鳴き声が聞こえ、自然を間近に感じられました。

ヒミツ02
 自然を感じるテラス
 間近で鳥の音が
 聞こえてくる



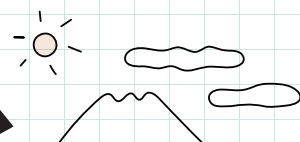
名物料理はイノシシ肉を使ったぼたん鍋。ホテルの前身である旅館時代は、一度に大人数の料理を作っていたため、残った料理を食べてくれるイノシシを飼おうということに。なんと敷地内で最大6匹も飼っていたそうです。今はもう育てていませんが、総支配人のこだわりで丹波から肉質の良いイノシシ肉を取り寄せています。みそで味付けされたお鍋はこっくりながらヘルシーだそうで、ぜひ皆さんにも味わってほしいです。

ヒミツ03
 名物料理はぼたん鍋
 味付けはみそなのに
 ヘルシー





この特集ができるまで



子ども記者が3日間の限られた時間の中で試行錯誤しながら完成させた今回の特集。
企画から記事作成までの裏側をご紹介します。



1

市職員から学ぶ!
取材&カメラ講座

人生初!
一眼レフ



広報課の職員から取材の基礎や一眼レフカメラの使い方を学びました。

2

ドキドキの
インタビュー!



どんなこと
聞こうかな?

取材
準備中

3

記事を書こう



取材をもとに、原稿作りに挑戦。市職員や取材先の意見を聞きながら文章を書き直したり、魅力が伝わるようなキャッチコピーを考えました。

いざ取材! ホテル若水の小早川
優代表取締役と、別庭あざれの
松本 富子総支配人から各温泉の
歴史やこだわりをたくさん聞いてき
ました。



noteではもっと
詳しく紹介!



特集作成を終えて

一眼レフカメラを人生で初めて使いました。使い方がむずかしく、頭がごちゃになりました。取材当日は、あざれへ行きました。女将さんに色々教えてもらいました。知らないことがたくさん知れました。また行きたいと思うくらい楽しかったです。



ゆうは記者

1日目は名刺の渡し方やカメラの使い方を教えてもらいました。むずかしかったけれど楽しかったです。2日目は実際に取材で、若水に行きました。社長にとってもいねいに魅力や歴史について教えてもらいました。名前の由来が一番魅力的でもしかったです。



りお記者

市は、子どもにやさしいまちである「こどもまんなか社会」の実現に向けた取り組みを進めています。今回の「子ども記者」は、子どもたちが地域社会に触れ、自ら発信する経験を通じて成長することを目指した初の試みです。市民の皆さんにとっても地域の魅力を再発見するきっかけとなれば幸いです。

市の「こどもまんなか」の
取り組みは6ページへ